

令和 5 年度（2023 年度）第 2 回
箕面市立図書館協議会会議録

箕面市立図書館

1 日 時 令和 6 年（2024 年）3 月 13 日（水）
開会 午後 2 時 閉会 午後 3 時

2 場 所 箕面市立中央図書館 2 階 視聴覚室

3 出席委員	渡邊	智山	会長
	日根	真理	副会長
	山下	純	委員
	高野	俊子	委員
	野本	淳子	委員
	増田	友美	委員
	伊藤	美保	委員
	和田	智尋	委員

4 傍聴者の有無 なし

5 出席職員	大迫	美恵子	中央図書館長
	岡野	真須実	東図書館長
	巢組	裕子	桜ヶ丘図書館長
	高橋	浩志	西南図書館長
	小松	紀子	小野原図書館長
	前川	敦子	船場図書館長
	坂上	未希	中央図書館室長補佐
	渡部	笑歩	中央図書館職員

6 議事日程

日程第 1（案件第 1 号）

令和 5 年度の取り組みと次年度の方向性

→教育大綱別紙に基づく図書館での取組の結果と次年度の方向性について説明。

意見交換

日程第 2（案件第 2 号）

その他

→「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」オーサービジットについて説明。

意見交換

【会議次第】

日程第 1（案件第 1 号）

令和 5 年度の取り組みと次年度の方向性

教育大綱と教育大綱別紙に基づく「図書館サービスの充実」をはかる方策として、電子図書館の活用、スマートフォン貸出券の開始、図書館での子どもの居場所づくりなど、令和 5 年度の取り組みの状況と次年度の方向性を、事務局より説明。

会 長： 今の説明に対して、ご質問やご要望はないか。

委 員： 電子図書館使い方講座は参加人数が少ないように感じるが、どのようなかたが利用しているのか。

事務局： 電子図書館使い方講座については、参加人数が少ない日や、申込がない日もある。講座で使われているテキストはホームページにも掲載しており、日頃スマートフォンを操作しているかたであれば、電子図書館は概ね問題なく利用いただけるものと考えている。講座はスマートフォンやタブレットの操作に慣れていないかたや、説明を聞きながら試してみたいかたを想定して講座を開催している。実際に講座に参加されているかたは、日頃からスマートフォンを使っているかたもいれば、使っていないので講座に参加されたかたもいる。比較的高齢のかたが多く参加されている。講座の内容については今後見直し、来年度は本の予約や検索の仕方など図書館のウェブサービスの使い方を一緒に説明する内容を加えていきたいと考えている。

委 員： 次年度の方向性としてスマートフォンに貸出券の表示機能が追加されることは、とても便利になると思った。電子図書館について質問だが、ウェブサービスで検索する際、同じタイトルで電子と記載されているものがヒットすることがある。これは電子図書館で読むことができるということか。

事務局： 電子と表示されるのは電子書籍である。電子図書館は電子書籍と電子雑誌とオーディオブックの 3 種類がある。オーディオブックは図書館のシステムと連携していないため、別のサイトで見えていただく必要がある。電子書籍は図書館の検索システムと連携しているため、検索結果のタイトルをクリックしてから電子図書館のページにログインして借りることになる。

委 員： 貸出券を持っているだけでは利用できず、電子図書館の ID 等を登録する必要があるのか。

事務局： 図書館の WEB サービスを使うパスワードを登録していれば、ログイン先

は異なるが電子図書館やオーディオブックも同じパスワードで利用できる。

委員： 一度のログインですべてのページに飛ぶことができれば利便性が向上するのではないかと思った。

事務局： システムが別になるため現状では難しい。また、電子書籍は貸出手続きをして閲覧する仕組みだが、電子雑誌はログインするといずれも閲覧できる仕組みになっている。ただし、ログインしないとどのような雑誌を閲覧していただけるかが分からない。紙の雑誌以外に電子雑誌の利用もできるようになったが、電子雑誌の利用があまり伸びていないことが課題である。電子雑誌をぜひご利用いただきたい。

委員： 図書館に雑誌を読みに行くことが多いが、別のかたが読まれていたりして棚にないことが多い。電子雑誌があることも知らなかったため、ぜひ電子図書館を利用したい。

会長： 電子図書館は図書館のコンテンツのデジタル化だが、図書館の利用の仕方もデジタル化が進んでいるため、図書館側も利便性を高めるべく努力していただきたい。

委員： 人と本を紡ぐ会が西南図書館の子どもの居場所事業のなかで、以前から行っていた第三土曜日の午後の紙芝居の実演を、現在の実施団体であるメリータイムさんをお願いして、今も継続して活動している。これからメリータイムさんとも一緒に取り組んでいきたいので、こちらから働きかけをしていきたいが、図書館からもお声かけをいただいてスムーズな流れにしたい。

会長： 全体像の話だが、図書館の生涯学習・社会教育理念としては、「いつでもどこでも誰でも学びたいことを学ぶ」ことを支援するのが活動の主体になると理解している。今年度の図書館サービスとして、より具体的な重点を置いたところに電子図書館サービスの充実や居場所づくりが挙げられた。前回の会議でも話題になったが、不登校児童の居場所づくりも求められている。居場所づくりは西南図書館でメリータイムさんが取り組んでいる状況が報告されたが、学びの支援は今後図書館がどのように取り組んでいくか検討する必要がある。学びの環境づくりや人のサポートが大事になってくと思うが、学校現場と図書館等が連携して、不登校の子どもたちや病気で苦しんでいる子どもたちの学びの支援になっていくプログラムを検討していただけると、よりよい図書館づくりができるのではないか。大阪大学との連携も含めて、場所の提供だけでなくサービスの提供も大切だという個人的な意見がある。

委員： 登録されたかたが勉強できるサービスが西南図書館にあると以前お聞きした。

事務局： 西南図書館では、メリータイムさんが、会費制で家庭学習をサポートする居場所を毎週金曜日の夕方から開催している。

委 員： 西南図書館地域では子ども食堂なども地域で行っていて、勉強を教えるプログラムも提供している。社会福祉協議会などが中心となっている。活動は地域によって違いがあるのか。

事務局： 市としての取り組みは、一定地域ごとにあると思われる。

会 長： 今年度のさまざまな取り組みは素晴らしいと思う。多彩なプログラムがあることは利用者にとっても良いことである。例えば、院内学級に本を貸し出すことができればよいというわけではなく、ボランティアさんをお願いするなど、プログラムに利用者が直接関われる機会を作りたい。この時期に取り寄せたいという時にどこに求めたら良いのかを支援するような仕組みができていくと良いと思う。より良い図書館づくりのための図書館のありかたは大事である。ところで、西南図書館のレゴブロックを使った催しでは、科学的な思考を育て、自由な発想を持ってもらうために、レゴブロックは遊びではなく大事な学びの要素だとわかるが、ボードゲームはどのような学びの要素があり、理念があるのか。

事務局： ボードゲームは一人ではできないので、複数の人や違う世代の人と交流をしながら進めていくゲームになる。図書館で使用するゲームを選ぶ際には、一定の評価があるものを選んでおり、ただ楽しいだけではなく、どのような力を育めるかについて考えられたゲームを選んでいる。また、以前に森先生から説明があったとおり、日本だけでなくいろいろな国で作られているゲームを取り入れることで、その国の文化を知ることにも繋げていきたいと考えている。西南図書館地域で、多世代の人が集まってボードゲームを通じて交流ができれば良いと思う。

会 長： 素晴らしい理念だと思うが、一般利用者からみると、図書館にボードゲームがあるということにとどまると思うので、理念をPRすることは大事だと思う。

委 員： 西南図書館の子どもの居場所には、以前はオセロや将棋や囲碁のセットを置いていた記憶がある。今はボードゲームなどいろいろなものを置いているのか。

事務局： 将棋や囲碁のセットは今も置いている。ボードゲームはパーツが多いので、現在は自由に使っていただくことはしていない。今後どうするかは検討中である。

委 員： 自分が子どものときは図書館は本を借りに行くためだけに利用していた。箕面はイベントをたくさん開催しているので、よく利用している。スペースも広いので、快適に利用でき、図書館を身近に感じている。

質問だが、図書館の貸出券は今後アプリになっていくのか。

事務局： アプリではなく、ウェブサービスのマイページにバーコードが表示されることになる。システム会社によると、アプリ自体を作ることは難しくないが、スマートフォンの機種が変わっていく中で、都度メンテナンス費用がかかるため、図書館アプリの作成は考えていないということだった。

委 員： 自分自身は小さい子どもが3人いて普段図書館にはなかなか行けない。そ

のため、電子図書館の存在自体も知らなかった。小学校に tomoLinks 等を使って広報はしないのか。

事務局： 市の広報誌には掲載しており、地域の学校には個別にちらしを配布するなどしてお知らせしていることもある。例えば西南図書館のイベントのちらしは東部地域には配布していない。学校を通じての行事の告知の仕方はいつも課題として考えている。

委員： 昔の図書館は、本を借りに行く、知識を得にいく目的だけで通っていた。今は生涯学習・社会教育のくくりの中で話を聞いていると、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代のことを考えていることが素晴らしいと思った。生涯学習における図書館の取り組みはどこが核になるのか上手く整理して、図書館しかできないことに集中して、よりよいアプローチの仕方ができるようになればよいと思った。

会長： 色々なプログラムを司書だけでまかなうことは難しいと思う。だからこさまざまなNPO団体やボランティアと協力して、地域社会全体で図書館を通した学びを支援していく必要がある。司書の専門性のひとつとして、今後はさまざまな学びのプログラムをいかにコーディネートしていくかの手腕が問われていくと考えられる。

日程第2（案件第2号）

その他

事務局より「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」オーサービジットについて箕面ブログの掲載記事に沿って説明。

会長： 図書館では先生の講演会など企画はしないのか。協力をしてくれた学校を中心に回ると伺ったが、その中に図書館は入っていないのか。

事務局： 今泉先生は受賞式にお越しいただいた。受賞式は誰でも参加できるのでその場でお話を聞いていただくことはできた。図書館単体としての講演会はしていない。

オーサービジットは、学校のさまざまな児童や生徒がお話を聞く機会になることから毎年学校に訪問していただいて開催している。

会長： 講演を市民の方が聞きたいという要望があると思う。著作権の処理を含めて、録画を一定期間でも良いのでネットに配信できるようにすると、図書館が情報発信と学びの支援をしているというスタンスがとれると思う。

委員： オーサービジットは10年以上前に始まったと思うが、箕面は子どもの読書活動に力を入れていて各校に司書を配置している。子どもたちもオーサービ

ジットを楽しみにしていて毎年盛り上がる。子どもたちも普段読んでいる有名な作家が目の前に来て、いろいろな話をしてくれるとても良い取り組みである。予算上の都合もあると思うが、今後も続けていただけるとありがたい。学校側としてもオーサービジットの発信は続けていきたい。

事務局： もう一点報告があり、前回の協議会で外国にルーツをもつ子どもたちに大阪大学の外国の図書を提供したいため、大阪大学の蔵書も箕面市の蔵書と同様に取り寄せができるようにしてほしいというご意見をいただいていた。学校側から申請をしていただくと、箕面市の配本システムを使用して届けることができる仕組みを、来年度から提供する予定である。

会 長： 少しずつでも改善していくことは大事で良い事例だと思う。その他になれば、本日の図書館協議会を終了する。